

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調査

都道府県名	兵庫県	事業実施主体	兵庫県、洲本市、南あわじ市	地域再生計画名	『～食極めれば淡路島～』南淡路地域再生ネットワーク化計画
計画期間	令和３年度～令和７年度	評価責任者	兵庫県農林水産部農地整備課長、洲本市都市整備部長、南あわじ市産業建設部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度		年度	中間実績	基準年度			指標総数	達成数		
	指標1	主要観光施設への入込客数の増加(千人)	530	R2	870	R5	1201	1200	R7	○			既に最終目標値を達成している。
	指標2	農村型体験交流施設の入込客数の増加(千人)	644	R2	716	R5	961	747	R7	○	2	2	既に最終目標値を達成している。
②事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度(R5)	最終実績見込み								
特別措置を適用して行う事業	広域農道整備事業		17.00km	15.10km	17.00km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約89%と若干の遅れが伺えるが、計画期間に事業完了できるよう引き続き整備を進めていく。							
	市道整備事業		6.40km	1.28km	6.40km	当初計画に対し、路線延長から見る進捗率は、約20%と遅れが伺えるため、必要に応じ、計画期間の延長を行い、引き続き、計画に則した整備を目指していく。							
その他の事業													
計画外で独自に実施した事業	就農支援体制の強化		就農希望者向けセミナー・相談会を開催、地域農業情報（空家、農地、支援体制等の情報）の発信			淡路県民局、南淡路農業改良普及センター、南淡路農業改良普及事業協議会が主催となり、認定農業者および志向農業者や就農後間もない新規者の方々を対象に、高度な専門技術等の習得のための講座を開催している。							
	産直販売事業		農産物直売所において、地域で収穫された農畜産物や農産物加工品等を販売			農産物直売所「御食菜採館(みけつさいさいかん)」において、地域で収穫された農産物、淡路ビーフや農産物加工品等を販売を行っている。							
	たまねぎの収穫体験		農畜水産物直売所において、農業体験を求める個人、企業等に対したまねぎ収穫体験を実施			農畜水産物直売所「美菜恋来屋」において、県内の武庫川女子大学の学生を対象にたまねぎの収穫体験を実施している。また、個人向けについては、天候不良による中止やコロナ禍により中止があったが、令和5年度から募集を再開し、実施している。							
	農業祭・食まつり」の開催		農畜産物のPR、ブランド化の推進を図るため、「農業祭・食まつり」を開催			洲本市では、農業祭を開催し、農畜産物を広くPRすることで、ブランド化を図り、農畜産業の振興・発展を推進している。南あわじ市では、食まつりはコロナ禍による自粛等で独自開催できなかったが、県が主催する農林漁業祭への出店や県内自治体のイベントに出店を行い、農畜産物のPR及び農産物のブランド化を継続的に実施している。							
	「城下町洲本レトロなまち歩き」の開催		レトロなまちづくりのイベントを実施するとともに、町家を改修し、新規テナント者のチャレンジショップとして活用			レトロなまちづくりのイベントを実施するとともに、町家を改修し、新規テナント者のチャレンジショップとして活用するなど、交流人口・定住人口の拡大を図る取組を展開している。							
	農業競争力強化農地整備事業		担い手への農地集積の加速化や農業の高付加価値化等を推進するため、農地農業用水利施設整備を行う			担い手への農地集積の加速化や農業の高付加価値化等を推進するため、現在、洲本市、南あわじ市において6地区の農業競争力強化農地整備事業に着手し、農地・農業用水利施設の整備を行っている。							
	洲本市赤レンガ建物の再活用		近代化産業遺産に認定されている赤レンガ建物群のうち1棟をリノベーションし再活用し、交流人口の拡大を図る			交流人口拡大のため、リノベーションを行った交流拠点「S-BRICK」において、交流イベント・ワークショップを定期開催している。							
③評価方法		計画作成主体が新規就農者数及び入込客数統計データの収集調査を行い、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
④中間評価の公表方法		公表は事後評価のみとしており、中間評価は公表しない											
⑤計画全体の総合評価		広域農道及び市道の一体的な整備により、南淡路地域の道路交通ネットワークを構築し、農業集落におけるヒトの流れとモノの流れ（生産地から出荷地・消費地までの商品物流）を活性化させ、地域の特色を生じた観光産業の発展および農業の持続的な発展をめざすことを目標としている。 指標1・2とも既に最終目標値を達成しているが、事後評価時点においても目標値を達成できるよう引き続き地域再生計画の事業展開を図っていく。											
⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況					有りの場合その具体的内容							
	地域再生計画の見直し（有・無）					洲本市道・南あわじ市道については、用地交渉の難航、関連事業工事の遅れ等により道路整備が遅れており、計画期間内での完了が困難な状況にある。このことから、地域再生計画を変更し、事業期間を2年間延伸する。また、労務費や資材価格の高騰が続いていることから、事業費の増額変更を上記にあわせて実施する。							
	令和6年度予算要望額への反映（有・無） 有りの場合の増減額 千円												
⑦今後の方針等に対する対応		●事業期間延長計画の変更の認定申請を予定 ●事業費の見直し ・総事業費 認定時7,775,700千円→見直し後8,274,700千円[499,000千円増（うち交付金249,500千円）増]											